

2

学びの質を高める授業づくり

ポイント

学びの質を高める授業づくりでは、「単元・題材観」「児童生徒観」「指導観」の三つの観を関連させてながら考えることが大切です。

1) 学びの質を高める授業づくり

学びの質に着目した授業改善では、前頁で述べた各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を踏まえた学びの過程において、児童生徒が主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げたり深めたりしながら、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりが重要です。

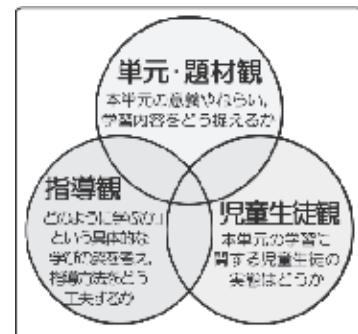
このような「主体的・対話的で深い学び」によって、児童生徒は、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようになります。そのための授業づくりとは、どのように考えていけばいいのでしょうか。

「単元・題材観」「児童生徒観」「指導観」について

「単元・題材観」とは、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」という本単元の意義やねらい、内容をどう捉えるか。「児童・生徒観」とは、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」という本単元の学習に関する児童生徒の実態はどうか。「指導観」とは、「どのように学ぶか」という具体的な学びの姿を考え、指導方法をどう工夫するか、です。

学びの質を高める授業づくりにあたっては、目指す資質・能力や、単元や題材などの内容、時間のまとめを見直す（単元・題材観）とともに、学習者である児童生徒の状況を把握し（児童生徒観）、具体的な学びの姿を想定した系統的・発展的な指導を工夫（指導観）する必要があります。なお、これらの三つの観は、独立したものとして意識するのではなく、それぞれを関連させることが重要です。

中学校理科「状態変化」の学習を例に説明します。学習内容は「物質は状態変化によって体積は変化するが質量は変化しないこと」です（単元・題材観）。学習内容に関する生徒の実態として「（水以外の）物質の状態の変化を観察したり、その際何が起こっているかを考えたりした経験がない。」ことを把握します（児童生徒観）。そこで、学習内容と生徒の実態から、物質の状態変化と体積や質量の変化に着目して、状態変化における規則性を見いだせるように、例えば、エタノールを密閉したビニル袋にお湯をかけてビニル袋が膨らむ現象に出合わせることで、「物質の状態が変化する時、何が起きているのだろう。」という課題を生徒から生じさせ、仮説を立て検証させる展開を行います。また、液体の鉄等、身近な物質の普段と異なる状態を映像等で紹介します。このように、三つの観を関連させて授業づくりを進めることで、物質の状態変化における規則性を既習の知識・技能や生活経験等と関連付けて考えようとする生徒の姿につながるのです。



第2章 アクティブ・ラーニングの視点から学びの質を高める

それでは、三つの観から具体的に何を把握するのか、以下に述べます。

単元・題材観

本単元を終えた児童生徒が「～について理解し、～できるようになる。」等、資質・能力が育成されてどのような姿になることを目指すのか、具体的に把握します。

- ・ 本単元の学習は、学習指導要領のどの目標・内容に基づいたものか
- ・ 本単元の学習は、児童生徒にとってどういう点で価値があるのか
- ・ 本単元の学習内容は、内容の系統性から考えると、どこに重点を置き、どう発展させることが大切か 等

児童生徒観

資質・能力の育成に関する、児童生徒の実態を把握します。

- ・ 児童生徒の関心・意欲や能力等の実態はどうであるか
- ・ 児童生徒の過去の学習経験や生活経験と、本単元との関連はどうなっているのか
- ・ 本単元の学習で児童生徒はどのような場面でどのようなつまずきや抵抗感をもつか 等

指導観

単元終了後の姿を実現させるために、児童生徒の実態を踏まえると、どのような手立てを行えばいいか、問題の発見・解決のプロセスから考えます。

- ・ ねらいや児童生徒の実態から考えて、どんな順序で教材を組織し、どんな学習形態・学習方法を重視するのか
- ・ 本単元の学習指導では、具体的にどんな手立てを講じるのか
- ・ 本単元の学習指導を行う上で、つまずきなどに応じて具体的にどのような点に留意する必要があるのか 等

問題の発見・解決のプロセスを基に授業づくりを考える

学びの質の高い授業づくりでは、児童生徒が主体となって学ぶ過程を「問題の発見・解決のプロセス」と捉え、「見通し」「探究」「振り返り」の各場面について、1単位時間だけでなく、単元や題材のまとめを通して考える必要があります。このプロセスにおいては、児童生徒の課題意識から学びを捉え、自らの問い合わせをもつとともに見通しをもって学ぶ姿、課題解決に向けて仲間と協働して学ぶ姿、学びの有用性を実感したり次の課題に気付いたりする姿等を想定して授業づくりを進めましょう。

